

男女共同参画講演会を開催しました

おつきあいが楽しくなる人間関係 ～聞き上手は伝え上手～

下野市と下野市女性団体連絡協議会の共催により、11月20日（土）に「男女共同参画講演会」を開催しました。

『おつきあいが楽しくなる人間関係 ～聞き上手は伝え上手～』をテーマに、僧侶であり、アナウンサーでもある川村妙慶さんを講師にお招きし、僧侶の視点から「聞く」ことの大切さと、アナウンサーの視点から「言葉の伝え方」についてお話をいただきました。



主な講演内容

人間の心には、『思い』があります

仏教に、『別体同心』（べったいどうしん）という言葉があります。私たちはどんなに仲のよい夫婦であっても、お友達関係であっても、別々の体を持って生きているのですよということです。男性と女性でも、ひとつのくりでは決めつけられず、一人ひとりにそれぞれの生き方があるのです。しかし、私たちは別々の体を持って生きているとは思えないので疲れるのです。

なぜ疲れるかという
と、人間の心には必ず『思い』があるからです。必ずあることを思って、思ったことを言葉で伝えるのです。しかし、自分の思いが受け止めてもらえないと、自分でこの思いをどんどん大きくし、重くするのです。

では、この『思い』を重くしないためにはどうしたらよいのでしょうか。それはつらいかもしれませんが、現実・事実に向けることなのです。その思いと現実との距離が長くなればなるほど、この悩みが深くなってしまふのです。



言葉は“心の使い”なのです

聞くという字は門に耳です。扉を開いて耳を澄ますということです。門というものは、自分の都合で開け閉めをしますが、そうではなく、どんな状態でも扉を開いて常に端っこで聞いていこうとするのが耳なのです。

耳はいつでも開いています。これは「どんな声も聞いていきなさい」ということなのです。まず聞いていく、そして次に伝えていきます。

聞き方の中で気をつけていただきたいのは、答えを持って聞かないということです。その言葉を素直に受け取って、また、その言葉を相手に届けましょう。言葉は技術ではありません。言葉は「心の使い」なのです。上手に言葉を伝えられなくても心でお話ができるために、心を通わせることをしてほしいと思います。

比べない・・・あなたは、あなたでいいのです

お釈迦様は、このような言葉を残しています。「あなたはあなたになればいい、あなたはあなたであればいい。なぜ人と自分を比べるのですか？命というものは比べるものは何一つない。お花でも、ゆりはゆりの人生。バラはバラの人生。それぞれの役割を果たしているのです。人間だけが、こんなの私じゃないとイライラしているのです。けれど、あなたがこの世に生まれてきた尊い事実がある。この事実に向き合って生きていきなさいよ」と教えてくれています。

男女が共に生きる社会へ

人間は男性、女性というくりでは決めつけられず、それぞれが個々の人間として生きていくものだという事です。お互いの声を聞き、そしてそれに呼応することが、男女が互いに認め合い、一人ひとりの個性を受け入れていく「男女共同参画社会」へとつながるのではないのでしょうか。

皆さんそれぞれが自信を持ち、自分らしい生き方を見つけるために、「聞くこと」そして「伝えること」の大切さをもう一度見つめ直してみたいかがでしょうか。

講演会の詳細については、市のホームページをご覧ください。

<アクセス方法>

トップページ→総合案内→組織から探す→総合政策室→男女共同参画→「男女共同参画社会の実現を目指して講演会を開催しています」